

小学部の実践



目

次

I	基本的な考え方	23
II	実践1 「宿泊学習」の指導を通して	26
III	実践2 「まつりをしよう」の実践授業を通して	33
IV	ま と め	47

子供が、より生き生きとした活動ができるための 環境づくりはどうすればよいか

I 基本的な考え方

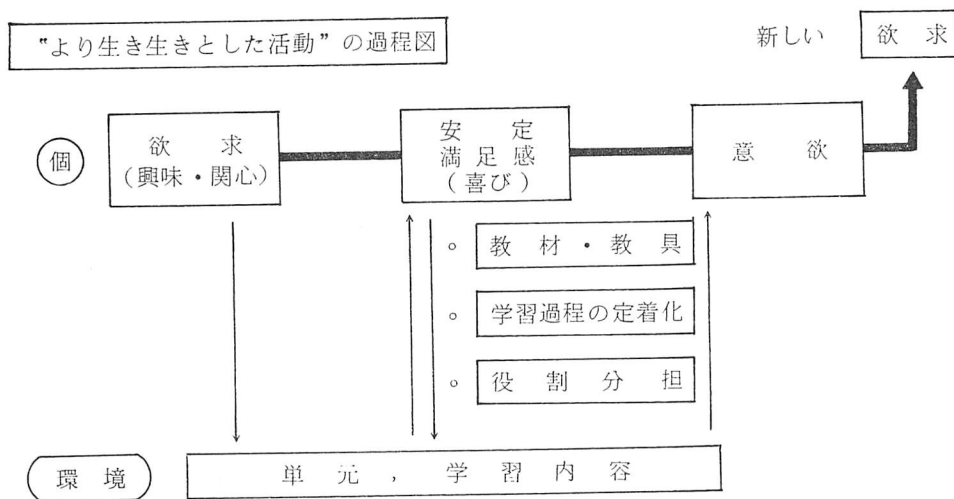
1. 小学部教育のねらい

子供たちは、親の養育態度や生活経験に影響されながら成長していく。とりわけ、知的障害をもった子供たちの性格や行動等は、それらに強く影響をうけている。小学部では、このような子供を受け入れ、その子供のもつ能力を最大限に発揮させ、生き生きとした学校生活をおくらせたい。そのために、小学部では、その子のあるがままの姿を受容し、安定を図り、その子が生き生きと活動できる素地をつくっていきたいと考える。このような考えに立ち、本校の教育目標をうけ、一人ひとりの実態をふまえて、「身近な生活経験をとおして、基本的な生活習慣や集団生活への参加能力を養うとともに、言語や数量などの初歩的な能力を伸ばし、心身の調和的発達を図る」ことを、小学部の目標に設定した。

この子供たちは、知的な面や身辺処理、遊びなどの面で発達に遅れがあり、それぞれの能力に差がみられるが、どの子供もそれなりの興味・関心をもっている。子供たちの興味・関心に基づいた指導内容を与えることによって、一人ひとりの能力を十分に発揮させ、生活への意欲を満たしていく学習、さらにその意欲を高めるための具体的、総合的な学習を生活単元学習ととらえている。そして、生活単元学習を教育課程の中核に位置づけている。

2. 研究の視点と経過

子供は、本来、食べたい、活動したい、人に認められたい等の様々な欲求をもっている。その欲求を満たしてやることは、子供の情緒を安定させ、満足感を与える。満足感を十分に与えられた子供は、別の活動をしたい、あるいは、より高次の活動をしたいという意欲を起し、子供の内面からわき出た活動、すなわち「より生き生きとした活動」ができるようになる。私たちは、この過程を「動き」ととらえる。



「より生き生きとした活動」ができるようになるためには、その子の心の中における欲求の状態から意欲へと高まる過程が大切であり、その過程に工夫を加えていかななくてはならない。そこで、私たちは、子供の欲求を取り入れた学習内容を組み立てることにより、子供が興味・関心をもった学習をすすめていけるようにした。また、人や物とのかかわりの中で活動することにより、基本的満足感や社会的満足感を十分に味わわせ、安定させることによって次の活動への意欲を起こしていきたいと考えた。人や物とのかかわり、すなわち、その子供と環境とのかかわりを考えるとき、子供の周囲には、いろいろな人や物がたくさんあるが、子供にとって意味があり、価値のあるものでなければ、活動し、満足するのに役立たない。子供にとって興味・関心のある人や物が備わってはじめて“意味ある環境”ができ、人や物とのかかわりがもてるようになり、活動の意味づけができるようになるといえよう。そこで、学習活動に必要な教材・教具も環境であるにとらえ、子供にとって意味あるものにしなければならない。

以上のような考えのもとに、私たちは、環境づくりが大切であると考え、その研究に取り組んだ。研究にあたっては、本校の子供たちの実態でもある、社会性が乏しく人とかかわりが上手にできないとか、見通しをもって行動することがむずかしいなどの精神遅滞児の特性や、これまでの研究・実践を参考にし、昨年度は、次の四つの視点を設定した。

- ア. 意欲をもたせるための発達段階に応じた教材・教具の工夫
- イ. 見通しをもてるための発達段階に応じた学習過程のパターン化の工夫
- ウ. 人とかかわりをもち、経験を深めるための役割分担の工夫
- エ. 適切な発問や提示、指示の工夫

昨年度の反省として、教材・教具の工夫によって、理解や技能面での効果をあげることはできたが、発達の遅れの大きい子供への配慮や工夫が足りず、満足感（喜び）を十分に味わわせることができず、そのために意欲的に活動する場面が少なかった。このことは、興味・関心のとらえ方が大まかであったためであると反省し、昨年よりもこの子供たちにさらに欲求を満たし、満足感（喜び）を味わわせることの必要性を感じ、実態を十分におさえて研究を継続することにした。

そこで、今年度は、“欲求・満足感に焦点をあて、意欲を育てる環境づくり”を中心に、次の三つを視点に設定した。

- ア. 教材・教具の工夫
- イ. 学習過程の定着化
- ウ. 役割分担

なお、昨年度の(エ)「適切な発問や提示・指示の工夫」は、他のどの視点でも取り組まなければならないものなので、三つの視点に含めて研究することにした。各視点については、テーマとかかわりを次のようにとらえる。

- ア. 「教材・教具の工夫」について

この子供たちは、興味・関心に基づいた教材・教具を使って具体的な活動をすることに

よって、満足感（喜び）を味わう。これを繰り返していくことによって活動への意欲が高まると考える。そこで、より一層満足感（喜び）を味わわせるには、五感にはたらきかけたり、全身を動かしたりするようなものにもっと目を向け、そのような活動を取り入れることが必要である。子供が実際の生活の中で意欲的に、しかもイメージ豊かに学習できるように、教材・教具を工夫し、活動するにあたっては、その子供の実態に立って、教材・教具のもつ特性を十分にとり入れていきたい。同一教材・教具であっても、教師のねらいや子供の興味・関心のちがいにによって異なった特性をもつことが予想されるが、子供にとって意味のあるものになるように与えたり、使ったりさせていきたい。

- 場の設定をする。
 - 雰囲気をつくる
 - 興味・関心をひろげる
 - 技能の足りない面を補う
 - 技能を高める
 - 理解を助ける
- などを、教材・教具のもつ特性としてとらえる。

イ．「学習過程の定着化」について

この子供たちは、見通しをもって活動することがむずかしかったり、新しい場面に出会うと情緒不安を起し、できることまでできなくなったりする。また一つひとつの活動はできても、それらをつないだ活動になると、混乱したり、意欲を失ったりして、消極的になったり、全くできなくなったりすることが多い。そこで、子供の関心・興味のある活動、できる活動をつないで、「流れ」を設定し、それを繰り返すことによって、子供の情緒は安定し、活動の仕方がわかり、少しずつ見通しがもてるようになり、活動への意欲が持てるようになると思う。そうすることによって一つの流れを習得すると、それを踏み台として、新しい流れをより習得しやすくなる。一時間の流れ、すなわち、一時間の学習過程を繰り返すことの効果として、喜びを味わいながら学習の内容や方法、態度を身につけ、さらにそれを続けることによって、単元全体への内容や方法等がわかり、見通しがもてるようにしていく。

ウ．「役割分担」について

学級という社会の中で、教師や友達とのかかわりをもって活動する満足感（喜び）を味わわせることによって、その子供のできることを十分に活動させ、活動への意欲を起さそうとするものである。教師とのかかわり合いもスムーズにいかないことが多く、子供との信頼関係をつくり、子供のよき理解者であり、よき補助者であることが、教育の第一歩であることを認識し、どのような指導の手だてをすればよいかを個別的、具体的に工夫していきたい。また子供どうしのかかわりを育て、連帯感や仲間意識をもたせ、集団生活への参加能力と態度を身につけられるように、「仲よしさん」という上級生とからなる二人組をつくり、二人組での活動を取り入れ楽しい活動になるようにする。このような人とかかわりを育てながら、役割分担によって、子供の生活経験を広めたり、深めたりすることもできると考える。

Ⅱ 実践1 「宿泊学習」の指導を通して

1. 単 元 1組「学校にとまろう」 2, 3組「宿泊学習」

2. 単元について

校内宿泊学習は、子供たちが自分たちの力でできることを十分に発揮することを中心に、子供たちと教師が学校に楽しく宿泊しようとするものである。本単元は、校内宿泊を目指して、子供たちに食事や入浴、睡眠などの活動する喜びを味わわせ、生活への意欲づくりを集中的、総合的に指導することをねらい、その内容としては、生活に必要な身辺処理（衣服の着脱、入浴、食事など）、集団参加（対人関係、きまりなど）、知的なもの（道具の名称、文字など）等があげられる。このような内容が含まれている毎日の生活の流れの中では、親や教師が世話をし過ぎたり、時間的に余裕がなく急がせたり、過大な要求をしたりすることで、その子の心の安定をこわしたり、やろうという気持ちを奪ったりしがちであった。そのためできることまでできなかったり、しようとしなかったりして、親や教師の補助を必要とすることが多い。

そこで、このような状態をふまえ、その子なりに意欲をもって活動に取り組むことができるようにするために、子供たちの興味・関心に基づいた学習内容を組織し、それを展開するのにふさわしい場を設定し、活動しやすい教材・教具を準備して指導にあたりたい。このような環境の中で、その子のできることを十分させることによって、活動することの喜びに浸らせ、心を安定させることができ、生活への意欲を高めることができるものと考ええる。つまり、食事やおやつ、入浴などは、感覚や知覚にはたらきかけたり、基本的欲求に基づいたりしているので、内容や方法を工夫することによって、一人ひとりの子供に応じることができ、校内宿泊に対しての期待感を大きくして実際に臨むことができる。これらの活動を通して、学校や家庭における身辺処理、集団生活、知的な能力を高めるための動機づけを図っていきたい。このような基本的な考え方に立ち、学級の実態（経験、興味・関心の種類、程度、技能、人とのかかわりなど）を考慮して、中心となる学習活動を次のように設定した。

1組 入浴、おやつ 2組 入浴、おやつづくり 3組 夕食づくり

3. 目 標

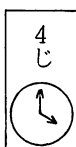
- ① 組 ・友達や教師と一緒に学校に泊まることを通して、宿泊の楽しさを味わわせる。
- ② 組 ・身辺処理能力の向上を目指して、自分のことは自分でしようとする態度を養う。
- ③ 組 ・友達と一緒に行動することによって楽しい宿泊を味わわせる。
- ④ 組 ・身辺処理能力の向上を目指して、すすんで自分のことは自分でしようとする態度を養う。
- ⑤ 組 ・集団の中で自分の役割がわかり、積極的に行動しようとする態度を養う。
- ⑥ 組 ・身辺処理の確立を目指して、すすんで自分のことは自分でしようとする態度を養う。

4. 指導計画（略）

5. 単元の展開

1組 (時数 32時間)	2組 (時数 32時間)	3組 (時数 40時間)																																																																																																																																																																																																								
<p>1. 昨年の宿泊学習の8ミリを見る。(2時間)</p> <p>宿泊のイメージを持ちやすいように、昨年度の宿泊の様子を8ミリを使って見、いつ、どこで、どんなふうに宿泊するのかを、こよみや絵カードを使って取り扱った。</p> <p>2. 宿泊道具を調べる。(2時間)</p> <p>宿泊への期待感やイメージを持たせるように、各自家から宿泊道具を持ってこさせ、必要な物がそろっているか、記名漏れがないか調べた。また、宿泊道具・絵カード・文字カードを使って、道具名を確認させた。</p> <p>3. 日程調べをする。(2時間)</p> <p>宿泊当日の日程に従って、どんな活動をするのか知らせた。この時には、何時に何をするというふうに、時計を扱った子もいた。</p> <p>4. 日程調べと各活動の練習をする。(24時間)</p> <p>学習方法の定着化を図り、宿泊への抵抗感を少なくし、イメージを高めさせるために、学習の始めに日程を取り扱い、その後各活動の練習をするというふうに、一定の学習パターンで、繰り返し学習を進めていった。</p> <div><p>・入浴準備・入浴(12時間) ・出し物の練習(1時間)</p><p>・衣服の着脱、道具の整理(6時間) ・文字指導(1時間)</p><p>・寝起きの練習、洗面(4時間)</p></div> <p>子供たちの実態を考慮し、衣服の着脱の練習ができることと、肌と肌の触れ合いにより、教師と子供、子供どうしの関係が豊かになる場があるということから、入浴を中心にして学習を進めてきた。</p> <p>1回目入浴の時は、校内の風呂場に入るのが初めてだったので、こわがる子供が2人いて、なかなか服を脱ごうとしなかった。しかし、教室で入浴の準備やまねをしたり、何回か風呂場に通ううちに慣れてきて、「おふろに行くよ。」と言うと、脱衣かごの中にタオル等を入れて準備して待つようになった。そして、風呂場に行くと、服をひとりでさっさと脱いで、浴室に置いていた遊具で遊んだり、教師と一緒に浴槽につかったりするようになった。</p> <p>5. 校内宿泊をする。(7月2日午後2時～3日午前10時)</p> <p>6. 反省をする。(2時間)</p> <p>8ミリを見ながら、どんなことをしたか話し合う。</p>	<p>1. 昨年の宿泊学習の8ミリを見る。(1時間)</p> <p>昨年の宿泊当日にどんなことをしたか思い出させ、今回の宿泊へのイメージを高めさせた。</p> <p>2. 今年の宿泊学習のことを聞き、学習することを決める。(1時間)</p> <p>宿泊の期日、当日の主な日程を聞いた後、当日までどんなことをすればよいか、昨年のことを思い出させたり、絵カードを使ったりして決めた。()内は指導時数を表わす。</p> <div><p>・宿泊道具調べ(2) ・日程表調べ(2) ・買い物(2)</p><p>・おやつづくり(14) ・入浴(6) ・寝起き(2)</p></div> <p>3. 宿泊道具調べをする。(2時間)</p> <p>宿泊に必要な道具がそろっているか、名前が書いてあるかなどを一人ずつ、道具を出させて調べた。記名漏れや、道具の有無を黒板に○×で子供に記入させた。</p> <p>4. 日程表調べをする。(2時間)</p> <p>日程表と絵カード、文字カード、模擬時計を使って、3時おやつ、4時ふろなど主な活動について、日程表と絵カード、模擬時計、文字カードと対応させた。</p> <p>5. 日程表を調べ、主な活動をする。(24時間)</p> <p>学習過程の定着化を図ることで、宿泊当日の活動がスムーズに行えるようにと、日程表と主な活動を組み合わせた学習を繰り返させた。そこで、2組では、基本的欲求の一つである食べることに焦点を当て、おやつづくりを中心に学習した。</p> <p>はじめ、子供と一緒にスーパーへ行き、彼らに作れそうな物(水や牛乳などを加える物、ホットケーキなど)を買った。次の日から先述のパターンで、7回おやつづくり(主にホットケーキ)を行った。</p> <p>繰り返す中で、次は何をすればよいかがわかっていく子供がいて、その子供を中心におやつづくりがなされた。当日は、午前中からおやつ準備をした。</p> <p>6. 校内宿泊をする。(7月2日午後2時～3日午前10時)</p> <p>男女別に、2教室に分かれて校内宿泊をした。おやつは、清涼飲料水とホットケーキを、2組の子供たちで準備し食堂で食べた。</p> <p>7. 宿泊学習の反省をする。(2時間)</p> <p>楽しかったことを言ったり、道具の後始末をしたりして反省した。</p>	<p>1. 昨年までの宿泊学習の8ミリを見る。(2時間)</p> <p>8ミリを見た後で今年の宿泊について期日を知らせたり、宿泊ではどんなことをするか話し合わせたりした。(絵・文字カード)</p> <p>2. 今年の宿泊の学習計画を作る。(4時間)</p> <p>宿泊当日の主な日程を知らせ、当日までに練習することを話し合いにより計画表としてまとめた。</p> <table><tr><td>日</td><td>6</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>29</td><td>30</td><td>7/1</td><td>2</td><td>3</td><td>6</td></tr><tr><td>計</td><td>8</td><td>話し</td><td>計画</td><td>宿泊</td><td>入浴</td><td>入浴</td><td>入浴</td><td>日</td><td>夕</td><td>寝</td><td>寝</td><td>日</td><td>夕</td><td>夕</td><td>日</td><td>日</td><td>夕</td><td>校</td><td>反</td></tr><tr><td>画</td><td>ミ</td><td>合</td><td>表</td><td>道具</td><td>の</td><td>程</td><td>程</td><td>立</td><td>食</td><td>起</td><td>起</td><td>立</td><td>食</td><td>食</td><td>入</td><td>入</td><td>食</td><td>内</td><td>省</td></tr><tr><td></td><td>リ</td><td></td><td>作</td><td>の</td><td>準</td><td>程</td><td>程</td><td>買</td><td>作</td><td>き</td><td>き</td><td>買</td><td>作</td><td>作</td><td>浴</td><td>浴</td><td>作</td><td>宿</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>り</td><td>認</td><td>備</td><td></td><td></td><td>物</td><td></td><td></td><td></td><td>物</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>し</td><td>泊</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>め</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>金</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>・</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>買</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>物</td><td></td><td></td></tr></table> <p>3. 日程調べと各活動の練習をする。(32時間)</p> <p>学習の方法や内容の定着化を図るために、学習の始めに日程を取り扱ったあとで主な活動を学習するというパターンで学習を進めたり、同じ活動を何回も繰り返したりした。本学級では、宿泊当日の夕食を自分たちで作りたいという子供たちの希望があり、夕食作りに重点をおいて学習を進めていった。</p> <p>夕食作りは、子供たちの意見を大事にしてメニューやそれに必要な材料を決めた。そのため1回目は、人参、にんにく、カレー粉だけのカレーができた。夕食作りの様子は、連絡帳や週報で家庭にも知らせ協力を求めた。その結果、カレーの作り方を家で聞いてくる子供もいて、3回目のカレー作りでは、じゃがいもや肉なども入ったカレーができあがった。調理は包丁や水を使い危険も伴うので、包丁の握り方を工夫したり、包丁は使わずに野菜を手でちぎらせたりした。1回目の調理では、切る、洗う、煮るなどすべての活動を全員に経験させたが、何回かやっていくうちに、分担して活動できるようになった。</p> <p>4. 校内宿泊をする。(7月2日午後2時～3日午前10時)</p> <p>5. 反省をする。(2時間)</p> <p>校内宿泊がうまくできたことを認めて、少年自然の家宿泊への意欲をもたせた。</p>	日	6	9	10	11	15	16	17	18	19	23	24	25	26	29	30	7/1	2	3	6	計	8	話し	計画	宿泊	入浴	入浴	入浴	日	夕	寝	寝	日	夕	夕	日	日	夕	校	反	画	ミ	合	表	道具	の	程	程	立	食	起	起	立	食	食	入	入	食	内	省		リ		作	の	準	程	程	買	作	き	き	買	作	作	浴	浴	作	宿					り	認	備			物				物					し	泊																			め																				金																				・																				買																				物		
日	6	9	10	11	15	16	17	18	19	23	24	25	26	29	30	7/1	2	3	6																																																																																																																																																																																							
計	8	話し	計画	宿泊	入浴	入浴	入浴	日	夕	寝	寝	日	夕	夕	日	日	夕	校	反																																																																																																																																																																																							
画	ミ	合	表	道具	の	程	程	立	食	起	起	立	食	食	入	入	食	内	省																																																																																																																																																																																							
	リ		作	の	準	程	程	買	作	き	き	買	作	作	浴	浴	作	宿																																																																																																																																																																																								
			り	認	備			物				物					し	泊																																																																																																																																																																																								
																	め																																																																																																																																																																																									
																	金																																																																																																																																																																																									
																	・																																																																																																																																																																																									
																	買																																																																																																																																																																																									
																	物																																																																																																																																																																																									

6. 本時の実際例 (1組 6月26日 80分)

過 程	おもな学習活動	時間	留 意 点	準 備
導 入	1. 宿泊の日にちを確認する。 ○ こよみ（7月2日）	10分	○ 宿泊の日にちや、友達と学校に泊るということを確認することによって、学習への参加意欲を持たせる。	・こよみ
	2. 宿泊当日の活動内容(日程)を調べる。 ○ 宿泊当日の活動を示した絵カードを見る。 ○ 日程にそって絵カードを並べる。 <div style="text-align: center;">(マッチング)</div> <div style="display: flex; align-items: center;"><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">① </div><div>3じ → おやつ 4じ → おふろ 6じ → ごはん 7じ → 楽しみ会 9じ → ねる</div></div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">② <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;">おふろ絵</div></div></div>		○ 宿泊に関する絵カードを見て、どんなことをするのか思い出して話したり、動作をしてみたりする。 ○ A君は②のカードをひとりで並べられるようにし、時計（時刻）に対する関心を育てるようにする。 ○ B君は、教師と一緒に活動内容に合った動作をしたり、具体物を見たりして、学習に興味を持たせるようにする。 ○ Cさんは、ことばによる指示でカードを並べるようにさせ、活動内容に興味を持たせていきたい。 ○ Dさんは、マッチングする楽しさを味わわせる中で、活動内容への理解を深めていきたい。	・絵カード ・小黑板
展 開	3. 入浴の準備をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">おふろにこう</div> ○ 入浴に必要な道具をかけた絵カードを見る。 ○ ひとりずつ順番に、脱衣かごの中に、入浴に必要な物を入れる。（B君→A君→Dさん→Cさん）	15分	○ 絵カードを手がかりにさせながら、入浴の準備をさせたい。 ○ B君は、教師と一緒に準備させる。 ○ A君はひとりで準備させる。 ○ Dさんは、ことばかけと絵カ	・絵カード ・各自の道具 ・脱衣かご ・洗面器

過 程	おもな学習活動	時間	留 意 点	準 備
	<ul style="list-style-type: none"> トイレに行く。(排尿) 移動(ふろ場へ) 	↓ ↑ 5 ↓ ↑	<ul style="list-style-type: none"> ードの提示により,準備させる。 ○Cさんは,ことばかけだけで,準備させる。 ○ 排尿がすんだ順に並ばせ, 4人そろったらふろ場へ移動させる。 ○ 脱いだ物は, 脱衣かごの中に入れさせ, あとしまつの態度を養う。 ○ ふろ場での注意は, 衛生面・安全面の最小限にとどめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・石けん ・シャンプー ・おもちゃ
	4. ふろに入る。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 畳の部屋で各自服を脱ぐ。 ○ 脱衣かごにたたんで入れる。 ○ ふろに入る。 ○ 体を洗う。 ○ 浴槽につかる。 ○ 髪の毛を洗う。 ○ 遊具で遊ぶ。 ○ ふろからあがる。 ○ 体をふき, 下着をつける。 	50	<ul style="list-style-type: none"> ○ 入浴後しばらく, 下着のままでもいいさせ, 肌のべとつきをおさえるとともに, 風呂あがりのさわやかさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うちわ
終 末	5. あとしまつをする。	↓		

<資 料> 校内宿泊学習日程表

一日目 (7月2日)	二日目 (7月3日)
午後	午前
2:00 先生の話	6:00 起床・洗面
15 そうです	30 そうです
45 手洗い, 用便	7:00 朝のつどい
3:00 おやつ	30 朝食
30 入浴準備	8:30 後始末
45 入浴(銭湯)	9:00 自由
4:00 夕食づくり	30 帰りの会
5:00 夕食準備	10:00 下校
45 夕食	
6:00 散歩	※朝食は女子教官が中心となってつくる。(6:00~7:00)
7:00 花火大会	
8:30 ねる準備	
9:00 ねる	



入浴の準備ができて浴室へ向う子供たち

7. 単元を終えて

1 組	2 組	3 組
<p>子供たちにとって未経験である校内宿泊を楽しく迎えさせることを基本に置き、その中で知識・技能・態度を育てていくために1組では入浴を単元の中心的活動として位置づけ、展開していった。以下、研究視点別に実際の様子と若干の考察を加えることにする。</p> <p>教材・教具の工夫</p> <p>能力に応じて、簡単な助言、あるいは教師の補助を加えながら入浴させるなかで、その楽しさを強化し、学習への意欲を高めるためにふろ場に遊具を持ち込み、また湯上がりには清涼感を与えるためうちわと冷たい飲み物を準備した。子供たちは、教師や友達と一緒に入浴のひとときを遊具を通して十分楽しみ、湯舟からなかなか上がろうとしない場面も見られた。また、うちわを使い冷たい飲みものを飲み、湯上がりの雰囲気も楽しいものに感じられた。</p> <p>学習過程の定着化</p> <p>入浴に必要な道具の準備、それに続くふろ場への移動及び入浴は繰り返し行ったわけであるが、当然のことながらその準備にかかる時間的なものは短縮され、教師の指示、助言もその度合いが少なくなっていた。また教室からふろ場へ移動する活動では当初、とまどいも見られたが、繰り返すうちに、教師の誘導なしに、まちがいないその活動がなされていった。</p> <p>役割分担</p> <p>入浴に必要な道具の準備をする活動において子供の能力に応じ、できることは自分でさせながら能力の高い子供が能力の低い子供の手助けをする場を指示設定し、友達どうしのかかわり合いを求めていった。例えば教師から指示された道具を能力の高い子供が指さしたり、能力の低い子供に手渡ししたりする活動であるが、このような活動は、教師が補助する場合より、活動がスムーズに行えただけでなく、その後の友達関係にも好ましい影響を与えていくことが、休み時間等の交友関係にも見られていった。</p> <p>未経験の単元であったにもかかわらず子供たちは一つひとつの活動に意欲的に取り組み、また宿泊のイメージを何とか持ち宿泊当日に臨めた子供も存在した。ただ、当日の入浴が銭湯というそれまでの学習の場と異った場で行われた事は、特に能力の低い子供にとってふさわしいものであったかは、今後の課題として、再考すべきことであろう。</p>	<p>宿泊学習というと、「ふろ」「花火」と出てくるように、みんなと一緒に楽しく過せるということで、子供たちが楽しみにしている行事の一つである。ところが、当日まで約一か月と長い間、当日に向けてめあてをもって学習することが困難な子供が多い。そこで、一時間の学習にめあてがもて、その時間内にめあてが達成できる活動を繰り返しながら、徐々に当日へつなげていった。その内容として、基本的欲求の一つである食べること（おやつづくり）を中心に学習を展開した。以下、三つの研究視点から考察を加えることにする。</p> <p>教材・教具の工夫</p> <p>おやつづくりでは、子供たちが学習へ意欲的に取り組み、できるだけ自分たちでおやつを作れるようにという面から、おやつの種類、材料、道具などを教材・教具ととらえた。</p> <p>最初は、水や牛乳などを加えるだけで簡単に見えるおやつを作った。2回目を作る時は、ボール・泡立て器、牛乳などを子供たちで準備して、時々指示するだけで作ることができた。これは、すぐにできあがり、作るだけでなく食べることができたのが興味をひきつけたようである。次に、ホットケーキを、それぞれ分担してホットプレートを使って作った。焼けるに従い、気泡が出て、黄色に変っていく様子を身をのりだして見ている子もいた。ホットケーキづくりは少し時間がかかったが、それぞれ子供にできる活動がいくつもあり、自分たちで作ったという喜びと、できる過程でおいがしたこと、できあがると、みんなで食べられるという期待が学習意欲を盛り上げたようである。</p> <p>学習過程の定着化</p> <p>日程表とおやつづくりを組み合わせることで繰り返させた。はじめ、準備、調理、後始末を教師が中心となってやり、徐々に子供たちにまかせていった。繰り返すことで、次は何をどうするという見通しが持てるようになった。</p> <p>役割分担</p> <p>粉と牛乳、玉子を混ぜる係、玉じゃくしてホットプレートに入れる係、できたホットケーキを取り上げる係とそれぞれの係を一通りした後、能力に応じて分担した。手のかかる子に、他の子が手助けをする場面があり、人とかかわり合いも見られた。</p>	<p>子供たちに生活する楽しさや喜びを味わわせるために、本学級では「食事作り」の活動を中心に展開していった。この活動は、材料の買いものからはじまり、野菜をちぎったり、切ったりなどして、自分たちの食事を作って食べようとするものである。これらの活動は人間として食べるという基本的欲求に根差しており、その活動自体楽しいものである。そのため、子供たちは生き生きと活動することができた。</p> <p>そこで、このことに対して研究視点からの考察を加えることにする。</p> <p>教材・教具の工夫</p> <p>この「食事作り」は家庭における母親の活動の再現化であり、休み時間のままごと遊びの延長であるために、子供たちは活動のイメージをもちやすく意欲的に活動することができた。なかでも子供たちに野菜や果物などの材料を実際に洗わせたり、ちぎらせたり、切らせたりしたことは、彼らの活動意欲をさらに引き出すのにおおいに役立った。</p> <p>このことは、子供たちに興味・関心のある内容を、興味・関心のある材料や道具即ち教材・教具を用いて活動させていくと、子どもたちに意欲をもたせて生き生きと活動させることができるということを示唆している。</p> <p>学習過程の定着化</p> <p>宿泊当日までに「食事づくり」の活動を4回設定することができた。1回目は、子供たちの発表した材料がカレー粉、人参、にんにくだけだったために、それだけのカレーとなってしまった。そこで、子供たちに実際に食べさせ、「何か足りないね。」と質問をし、子供たち自身に肉やじゃがいもがはいっていないことに気づかせていった。その結果、回を重ねるごとにおいしいカレーとなっていった。このように、繰り返しによって子供たちは、個々の活動の仕方を身につけたことはもちろん、その活動の内容までも自分たちで広げていくという意欲がみられ、休み時間のままごとにも工夫する態度が表れてきた。</p> <p>役割分担</p> <p>ここでは子供のできることを十分にさせるという考えのもとに、活動を分担した。即ち、個々に応じて野菜を洗う係、ちぎる係、切る係、皿を並べる係等の役割を分担し、早くすんだ者は、友達の手伝いをするようにした。このようにすることにより、一人ひとりを十分に活動させ、みんなで一つのものを作りあげた喜びを味わうことができた。</p>

Ⅲ 実践2 「まつりをしよう」の実践授業を通して

1. 単元 まつりをしよう
2. 期日 昭和57年11月24日(水)
3. 場所 小学部プレイヤード
4. 対象 小学部3組 男子2名 女子5名 計7名
5. 単元について

(1) 子供は、いつも体を動かしたいという欲求をもっており、環境へ働きかけようとしている。

それは、環境の中の関心や興味のある対象を見たり、触れたり、聞いたり、食べたりとか、体全体でその対象に働きかける活動を通して、その対象に対するおもしろさだけでなく、活動することのおもしろさ、楽しさもわかり意欲がわいてくるからではと考える。このような感覚に訴えたり、体全体を動かしたりする活動を数多くさせることが大事であると考え。

ところで、今ごろの季節は、おはら祭りや大学祭、取り入れ祭りなどあちこちで祭りが催されている。このような祭りには、みんなと一緒に踊ったり、みこしをかついでねり歩いたりする活動や、高らかにこだまする掛け声、食べ物やおもちゃの出店など、子供たちの心をとらえるものがたくさんある。ところが、子供たちは、祭りには行くが、それを近くから眺めているだけであったり、あるいは見て楽しんだり、喜んだりすることはあっても、それに参加し実際に体を通して体験することはほとんどない。

そこで、本単元では、祭りに必要な用具の準備や製作などをする際に子供たちの興味や発想を十分に取り入れて、彼らにできる祭りをさせることを通して祭りの楽しさを味わわせようとするものである。

すなわち、子供たちが、「まつり」をめざして、祭りで使うみこし、のぼり、うちわなどの道具や出店などを作って、それを使ったり、出店を校庭に設置したりすることによって、できたものが目に見えることにより、祭りに対するイメージや雰囲気盛り上げることができる。また、みこしパレードや出店に出す品物作りを何度も繰り返すことによって、祭りへの見通しや目あてをもたせたりすることができる。これらの活動は、子供たちの興味や発想を十分に取り入れ、彼らのできる内容を設定しているので、活動する喜びや楽しさを味わうことができる。このような活動をさせることによって、子供たちは、活動したいという欲求が満たされ、情緒の安定を図り、ひいては、次の活動への意欲、つまり活動場面、学習場面などいろいろな場面に意欲が広がっていくと考える。

(2) 本学級は、4年生男子1名、女子4名、5年生女子1名、6年生男子1名の計7名で編成されている異年齢集団である。知能指数はI Q 27～51まで、精神年齢は2歳6か月から5歳7か月で、知的能力や身体的機能など多くの面において個人差が大きい。

ところで、子供たちは大学祭については、これまで何回か出かけ、そのなかで、みこしパレードを見たり、自分の欲しい物を出店で買って食べたりした経験はある。また、連絡帳な

どによると、ほとんどの子供が、おはら祭りや六月灯といった地域の祭りでも同じような活動をした経験がある。一方、子供たちの学校での様子を見ると、友達と一緒にままごとをしていたり、台車に友達を乗せて校内を押して回ったりなど祭りの出店やパレードにつながるような活動もある。これまでも、子供たちは、一学期の宿泊学習の中で、自分たちの欲求や興味・関心から発せられたカレーやサラダ作りの活動を、教師の手助けは受けながらも自分たちでしてきている。このカレーやサラダ作りで得られた喜びは、家庭での手伝いや、学校でのままごと遊びとして表われてきている。また、最近では、一部の子供ではあるが、授業の中でも「〇〇したい」とか「あしたは何をするの」とかいった意欲的な声も聞かれるようになってきている。

子供一人ひとりの実態は、おおよそ次のようになる。

氏 名 (性別)	学年	I Q (田 中 ビネー)	MA	祭 り へ の 興 味 ・ 関 心	人 間 関 係	遊 び の 様 子	学 習 へ の 取 り 組 み
N・M (男)	6年	35	4:2	祭りには、おもちゃや食べ物の店が出て楽しいものであると知っており、興味・関心がある。	親や教師に対して甘えたい欲求が強い。時々下級生いじめが見られる。W・Yと下校が一緒である。	自転車遊びが多い。時々、W・Yのままごとに加わったり、中学部の子供とボールで遊んだりする。	教師の適切な助言があると、ねらいにそった意見を出す。
A・M (女)	5年	51	5:7	地域でのいろいろな祭りを見ており、祭りへの興味・関心は十分にある。	W・Yと仲よしであるが、W・Yの言いなりになってしまいがちである。	W・Yとのままごとで、土や草を使った料理作りや、本や電話を使う遊びが多い。	それまでの学習や日常生活の経験をもとに、自分の考えを発表できる。
S・J (男)	4年	45	4:9	地域でのいろいろな祭りを見ており、祭りのイメージを持ち興味・関心が高い。	進んで人とのかわりをもとうとする。	中学部の子供と一緒に台車で遊んだり、自転車で遊ぶことが多い。	学習への取り組みは積極的で何とも一番にしたがるが、ひとりでするには自信がない。
N・N (女)	4年	27	2:9	みこしやおどりなど一つひとつの活動へは興味・関心はあるが、祭りへのイメージはない。	教師に対しては体に触れてかわりをもとうとする。N・Hの世話をしようとする。	本を持つての常同行動が多い。トランポリンで遊んだり、台車に乗ったりすることを好む。	机での学習は、ティッシュなどで遊んでいることもあるが、自分から進んで発表することが見られるようになった。体を動かす学習は好きである。

氏 名 (性別)	学年	I Q (田 中 ビネー)	MA	祭 り へ の 興 味 ・ 関 心	人 間 関 係	遊 び の 様 子	学 習 へ の 取 り 組 み
T・M (女)	4 年	4 7	4:5	祭りや店との関連で祭りの楽しさを知っており、祭りへの興味・関心がある。	友達とのかかわりをあまり持とうとしない。	ひとりで本を見ていることが多い。時々、自転車に乗って遊ぶ。	学習への意欲はあるが、それが長続きしない。抗てんかん剤服用のため、落ち着きのない行動が見られる。
N・H (女)	4 年	3 7	3:6	店やおどりなど一つひとつのものには関心がある。	教師に対しては側に寄ってかかわりを持とうとする。友達に対して自分から働きかけることは少ない。	ひとりで指遊びをしていることが多い。各教室やプレイルームなどを行うろうろすることもある。	机での学習では指遊びが多く、体を動かす活動においてもじっとして自分から取り組むことは少ない。人形と食べ物に関する学習へは積極的である。
W・Y (女)	4 年	3 6	3:8	地域でのいろいろな祭りを見て、祭りの楽しさを味わっており、祭りへの興味・関心は高い。	A・Mと仲よしで、よく一緒に遊んでいる。主導権を持っている。上級生であるN・Mに対しても命令的になることがある。	A・Mとのままごと遊びが多い。遊びの流れの中で次は何をするか、自分で決めることが多い。	一つひとつの活動に意欲的に取り組むが、全体を見通すものではない。股関節脱臼のために足が不自由で走ったり跳んだりすることが思うようにいかないが、体を動かしての活動も意欲的である。

(3) 以上のような実態から、次のような点に留意して指導していきたい。

- 単元の導入の段階では、子供たちに、自分たちもみこしや出店を作って祭りをしたいという欲求をもたせ、「あんなみこしがいい。」「出店はこんなふうに作ろう」などといった発想をしやすいようにする。そのために、事前に撮影してきた祭りの８ミリやVTRを視聴させたり、実際に祭りの現場に行ってみこしや出店を見たり、買って食べたりといった活動を取り入れるようにする。
- 祭りの準備や練習をする段階では、子供たちのこれまでの経験や遊びからの欲求や発想を十分に取り入れ、楽しく意欲をもって活動できるようにするとともに、子供たちのできる活

動のまとまりをいくつか設定し、その活動を繰り返しさせることにより見通しをもたせるようにしたい。

- みんなと協力して材料や道具を運んだり、それぞれの能力に応じて仕事の分担をすることにより、子供どうし、子供と教師といった人間関係をさらに深めるとともに、一人ひとりの活動をみんなで認めてやる場を多く設け、一緒に活動できる喜びを味わえるようにしたい。
- 一人ひとりの子供が意欲をもって生き生きと活動できるように、それぞれの子供が興味・関心をもっている教具（材料、素材）や、その子ができる活動を單元の中に盛り込むようにする。
- 映像や音声で訴えるだけでなく、実際にみこしをかついだり、出店を作ったり、調理をしたりなど子供の体を動かし、教具（材料、素材）に働きかける活動を多く取り入れることにより、まつりに積極的に参加することの楽しさを味わわせたい。
- 子供が作り上げた作品は、子供たちの目につく身近な場所に展示し、休み時間に自由に扱わせたり、授業の導入で利用させたりすることにより、まつりに向けての雰囲気の高まりを感じられるようにしておく。
- みこしやのぼり、出店などを作る際、それに必要な材料や用具など、教師がすぐに与えるのではなく、できる限り子供たちに考えさせたり、身の回りから見つけ出させたりすることにより、自分の身の回りのものに改めて目をむけさせ、それを自分の生活に活用していくという態度を培っていきたい。
- まつりに関する言語や数量などの学習は、まつりの楽しい雰囲気をこわさない程度で取り扱うようにし、ドリルや定着化は教科学習で十分に取り扱うようにする。
- 子供たちの様子を連絡帳等で家庭に知らせ、学校での学習が家庭でも再現あるいは発展せられるように、出来上がった作品や出店の買い物ごっこで買った品物を家に持って帰らせたりする。また、まつり当日には、親の参加もよびかけたい。

6. 目 標

- まつりに必要な物（みこし、出店等）が分かり、それらの準備を友達と協力してすることができ、楽しいまつりができるようにする。

7. 指導計画

次	おもな学習活動	時 間
一	1. まつりについて話し合い、学習計画をたてる。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ VTR, 8ミリ視聴 ◦ みこしパレード, 大学祭見学 	(3)
二	2. まつりの準備をする。 (1) まめしぼり, みこし, のぼり, うちわ作り。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 色つけ, ぬり絵, 紙切り, のりづけ, テープはり (次ページへ続く)	(3)

次	おもな学習活動	時間
二	(2) 出店作り, 取り入れ, 調理 。 おこのみやきやさん 。 いものてんぷらやさん 。 みかん・やさいやさん 。 しんこだんごやさん (3) 出し物の練習 。 歌, リズムの練習 (4) 会場作り 。 舞台作り 。 アーチ作り 。 幕張り (5) 招待状作り 。 招待状書き 。 食券作り 。 封筒入れ 。 配布	(本時 ¹⁶ / ₃₁)
三	3. まつりに参加する。 。 準備(着替え, 店の商品作り) 。 みこしパレード 。 店での売り買い 。 。 出し物(歌, リズム) 。 後始末(着替え, 道具の始末)	4
四	4. 反省をする。 。 VTR視聴 。 会場の後始末	2

8. 本 時 (25/40)

(1) 目 標

- 。 材料や道具を一緒に運んだり, 店を分担して作ったりすることにより, みんなで協力して作り上げる喜びを味わうことができる。
- 。 今までの店作りの経験を生かし, しんこだんご屋の店を作ることができる。

個人目標

- N・M……。 店の壁作りに必要な物(金づち, くぎ, 箱)が分かり, それらを使って時間いっぱい壁作りができる。
- 。 友達に声掛けしたり, 手伝ったりしてクラスのリーダーとして活動できる。
- A・M……。 だんご屋のメニュー書きに必要な物(紙, 油性ペン, 机)が分かり, 教師の手本を見てメニュー書きができる。
- S・J……。 店の壁作りに必要な物(金づち, くぎ, 箱)が分かり, ダンボールの壁の印のあるところにくぎを打つことができる。
- W・Y……。 店のかんばん作りに必要な物(布, クレパス, 竹)が分かり, 「だんご」の文字を枠からはみ出ないように色ぬりすることができる。
- N・N……。 店の壁に絵かき歌をうたいながら絵をかくことができる。
- T・M……。 だんご屋のカンバンやメニューに時間いっぱい絵をかくことができる。
- N・H……。 食べ物の絵や写真を自分で選び, 店の壁にはることができる。

(2) 指導にあたって

まつりの当日に向けて、子供たちはこれまで、はちまき(まめしぼり)、のぼり、うちわ、出店作りや調理(出店で売る品物作り)などの活動をしてきている。これらの活動は、子供たちの興味や関心、発想に基づいて設定されたものであるため、子供たちは楽しんで参加している。ところで、出店については、子供の希望により、一番目におこのみやきやさん、二番目にみかん・やさい屋さん、三番目にいものてんぷらやさんという順で作ってきている。子供たちは、このような一連の店作りの活動を繰り返すことにより、道具や材料の置き場所、製作の手順といったものを分かってきつつある。

そこで、本時のしんこだんご屋さんを作る活動では、見通しをもって活動しやすいようにするために、子供たちには前の三つの出店と同じ材料や道具、製作の手順で作らせたり、学習の計画表を確認させたりする。また、N・NやN・Hについては、活動の一つひとつについても興味や関心をひくような活動や教具を準備したい。さらに、材料や道具を何人かで運んだり、店の組み立ての活動において、壁作り、はり紙(メニュー)作り、壁の模様つけ、かんばん作りなどを分担して行わせることにより、みんなで協力して作り上げる喜びを味わうようにする。

(3) 準備

絵カード、棒、梓木、セロファンテープ、ガムテープ、机、イス、ダンボール箱、くぎ、金づち、テーブルクロス、布、クレパス、油性ペン、しんこだんご、はっぴ、呼子、たいこ、みこし、のぼり、うちわ、はちまき、計画表、竹

(4) 資料

ア. グループ編成

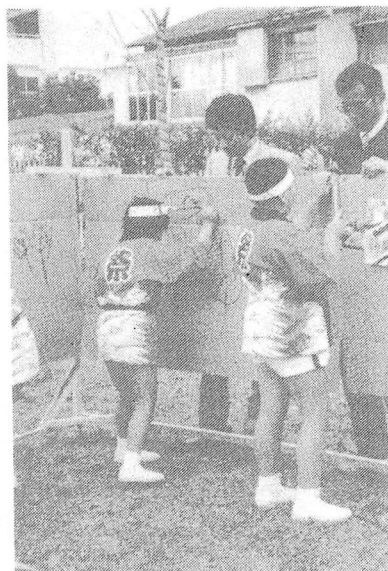
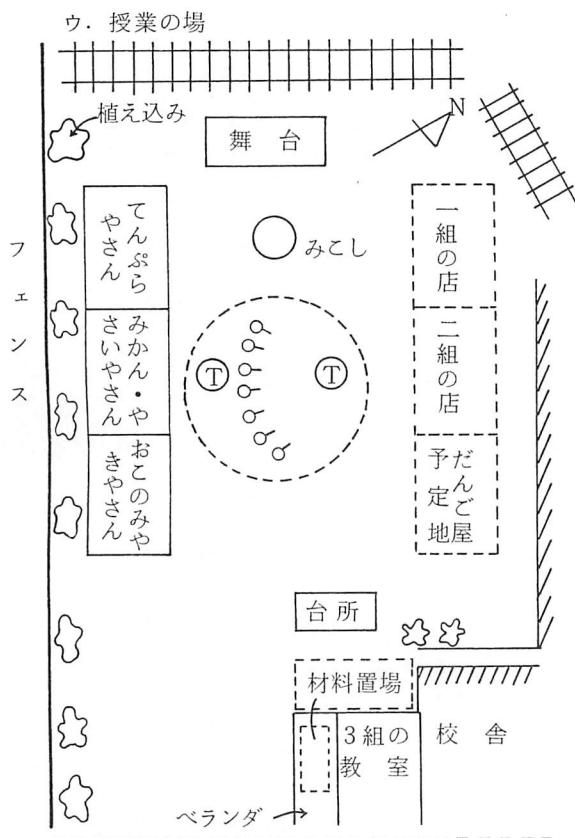
A群……N・M, A・M, S・J, W・Y

B群……N・N, T・M, N・H

イ. 計画表



子供たちの手による計画表



店作りの様子



まつり当日、みこしパレードをする子供たち

(5) 実 際

過 程 (時数)	学 習 活 動		教 師 の 手 だ て	備 考
	A 群	B 群		
意識化 (7分)	1. みこしパレードをする。 ・「わっしょい、わっしょい」と元気よくおみこしをかつぐ。 N・M…呼子、おみこし T・M…のぼり A・M…おみこし N・N…おみこし W・Y…のぼり N・H…おみこし S・J…うちわ 2. 今日の学習について確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">しんこだんごやさんを、つくろう</div> ・今日は店作りの4番目で、しんこだんご屋を作るとを発表する。		㊤ はっぴ、はちまきは休み時間に身に着けさせておく。 ㊤ かけ声や、呼子、たいこの音でまつりの雰囲気を作り、意欲を持たせる。 ㊤ ひとりひとりの行動面や身体面などを考慮してみこしパレードの役割を分担させる。 ㊤ 店作りの計画表をみせて、今日は4番目であることを気づかせる。 ㊤ 絵カードを見せたり「だんご」と言わせたりすることにより、今日だんご屋を作ること知らせる。 ㊤ 実際にしんこだんごを見せて、店作りへの意欲を持たせる。	・ はっぴ ・ はちまき ・ 呼子 ・ たいこ ・ みこし ・ のぼり ・ うちわ ・ 計画表 ・ 絵カード ・ しんこだんご
内容・方法の具体化 (30分)	3. しんこだんごの店を作る。 (1) 場所を決める。 ・どこがいいか話し合っ店場所を決める。 (2) 店の組み立てに使う材料、道具を考える。 ・どんな物を使うか考えて発表する。 ・棒、棒、テープ、かんばん、etc		㊤ 今まで作った店の並びや台所の位置を見せて場所を考えさせる。 ㊤ 「だんごやよていち」と書いたくいをたてさせる活動で、場所決めに参加させる。 ㊤ 今までに作った店を観察させて組み立てにどのような物が必要か気づかせる。 ㊤ 絵カードを見せたり、名前を言わせたりして必要な物を知らせる。 ㊤ 子供から出なかった物は、その時無理に出さず、作る過程で子供が気づくまで待つ。	・ くい ・ 絵カード ・ 棒、紙 ・ テープ ・ 机、いす ・ 箱など

子 供 の 動 き （見る 聞く 話す 行動 表情など）	
A 群	B 群
<ul style="list-style-type: none"> ◦全員がにこにこと元気よくみこしをかついでいる。 ◦N・Mはみこしの先頭に立ち得意気に呼子を吹いている。 ◦W・Yは時々元気よくみこしの前にかけ出し、みこしより離れることがある。 ◦全員、教師の方を見て話をよく聞いており、教師の発問に対して元気よく挙手している。 ◦N・Mは教師の発問に対して「お店作り」と言う。 ◦W・Yが「だんだ」と言いながら前に出て、だんだの絵を指さす。それから「先生の手はきたないからペケ、だんだは作れない。」と言うと、他の子も手で×の動作をする。 ◦W・Yが天ぷら屋の前に作ろうとその場かけ足で行き「ここ」と言う。 ◦S・Jはしきりに「じゃまだよ。じゃまだよ。ペケだよ。」と言う。 ◦A・Mは店の並びの一番端に作ろうと主張し、全員が納得して立て札を打つ場所を決める。 ◦N・Mが箱、W・Yが金づち、S・Jが棒、A・Mがくぎ、机、テーブル敷など発表する。 ◦N・Mは自信たっぷりに大きな声で「箱」と言う。 ◦A・Mは最初、自信なさそうに小さな声で発表するが、金づちでくぎを打つとか、テーブル敷を机にかけるとか身振りを交えて話す。 ◦S・Jは、A・Mが机があると発表すると、机の置いてある場所を見ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦全員がにこにことうれしそうである。 ◦N・Nは「わっしょい、わっしょい」のリズムに全身を合わせて、とても楽しそうにみこしをかついでいる。 ◦N・Hは、狭い道を通る際、みこしから手を離してしまうが、またにこにことみこしの後を追ひ、自分もかつぎたいと意欲をみせる。 ◦N・NとN・Hは教師の話はあまり聞いていないが、友達につられて元気よく挙手する。 ◦N・Nはだんだの絵を指さし「だんだ」と言う。 ◦N・Hはキョロキョロと周りを見ている。 ◦T・Mは友達の発表に拍手をしたり、絵を指差して「しんこだんだ」と言ったりしている。 ◦N・NとN・Hはキョロキョロと周りを見回したり、手遊びをしたりしている。 ◦T・Mは時々キョロキョロするが、だいたい教師や発表者の方を見ている。予定地に行く時、立て札を渡されて、うれしそうにそれを持って行く。 ◦全員が「はい、はい」と元気よく挙手する。 ◦N・Nは、教師から渡された絵カードを見ている。 ◦N・HはW・Yの発表の後に同じように「金づち」と発表する。その後、いすの絵カードを教師より渡されて前に持っていく。 ◦T・Mは、下を向いて小さな声で「おぼん」と発表する。二度目の発表では、W・Yと同じく「金づちです。」と言う。

過 程 (時間)	学 習 活 動		教 師 の 手 だ て	備 考
	A 群	B 群		
内容・ 方法の 具体化 ↓	<p>(3) 材料, 道具を運ぶ。</p> <p>。どこにあるか 考え, 自分から 進んで運んでく る。</p>	<p>。友だちと一緒に 運んでくる。</p>	<p>㊤ 一人ひとりの体力に合った物を 割り当てたり, 二人一組にならせ たりして, みんなで協力して運ば せる。</p>	<p>・棒, 机, ・いす, 竹, ・箱, 桧木, ・テーブルク ロス ・クレパス ・布, くぎ ・金づち ・食べ物の絵 や写真 ・テープ ・紙など</p>
	<p>(4) 店を組み立てる。</p> <p>。自分でどこか ら始めればよい か考えて, 進ん で活動する。</p> <p>N・M } 壁 S・J } A・M…はり紙 W・Y…かんばん</p>	<p>。割りあてられた 活動を友だちや教 師と一緒にする。</p> <p>T・M…かんばん N・N…絵かき N・H…絵カード をはる。</p>	<p>㊤ N・MとS・Jにはダンボール を壁板がわりにしてくぎを打たせ る。A・Mには「だんご 100円」と 書いたものを渡し, それと同じ 物を書かせる。W・Yには「だんご」 と書いた文字を色ぬりさせる。</p> <p>㊤ T・Mには声かけや補助をし, かんばんに絵をかかせる。N・H には興味を示す食べ物の絵や写真 を用いて店の飾りつけをさせる。</p>	
喜びの 深化, 継続化 (3)	<p>4. 次の時間は, 店で売るだんご作りを するところを再確認する。</p>		<p>㊤ 店の組み立て, 飾りつけ, かん ばん作りなど, 一人ひとりの子供 の活動を認め, みんなで作った満 足感を味わわせ, 4 時間目の調理 への意欲を持たせる。</p>	

(6) 評 価

- 。 みんなで協力して店を作り上げる喜びを味わうことができたか。

子 供 の 動 き （ 見 る 聞 く 話 す 行 動 表 情 な ど ）	
A 群	B 群
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 桢木のある所に行き、全員で運んでくると、A・Mが置き場所を指示しそこに置く。 ◦ N・Mは自ら進んで道具を取りに行き、呼子を吹きながらS・Jと一緒に机を運ぶ。教師の「もうありませんか。」の問に対して「箱」と答えて取りに行く。 ◦ S・Jは「みんなで行こうかね。」と言いながら道具置き場まで行き、N・Mと一緒に喜んで机を運んでいる。後で棒が足りないことに気づき、また取りに行く。 ◦ W・Yはクレパスを教室から持ってくる。 ◦ N・Mは金づちを右手で持ったり、左手で持ったりしながら一生懸命打っている。 ◦ S・Jはどこに打つのかわからず不安そうに「どこに打つの。」と周りにしきりに聞いている。 ◦ W・Yはかんばんに使う布を持って来て「だんど」と書いた所に色ぬりを始めるが、T・Mとクレパスの奪い合いになり、T・Mの絵の分まで自分でかいてしまう。仕事が終わると、教師に「終わりました。」と報告し、次は何をすればよいか聞く。 ◦ A・Mはどの油性ペンで書こうかと長い時間迷っており、書き始めるのに時間がかかる。 ◦ 全員、自分たちの活動をほめられうれしそうにする。そして早くだんどを作りたいがっている。 ◦ W・Yは調理道具の置いてある部屋の方に向かって行こうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ N・Nは、桢木に手を上からそえて運ぶ。他の二人は、絵のはってある所を持っているが、教師の補助でようやく運ぶ。 ◦ N・NはA・Mと一緒に机やテーブル敷を運ぶ。 ◦ N・Hはいすを運ぶ時はいやがって何度も手を離すが、シートを運ぶ時はにこにこした顔になる。 ◦ T・Mは自分でまっすぐいすの所に行き運んで来る。そして教師の「もう他にないですか。」の問に対してクレパスを持ってくる。 ◦ N・Nは、ひとりで壁に絵をかき始める。教師が来て絵かきうたをうたうと、その後は、歌に合わせて絵をかく活動に没頭している。 ◦ T・Mは布にだんごの絵を書き始めるが、W・Yの干渉にあい「しらないよ。」と言って逃げ出してしまう。 ◦ N・Hは、最初あちこちうろついているが、教師から食べ物の絵や写真をもらうと、うれしそうに「ほら」と言って周りの人に見せる。教師の「壁にはりませんか。」の問に対して、自分では場所を決め「ここに、ここに」と言う。次から次に絵や写真を取ぬ、「お肉だ。」とか「だんど」と言いながらはっている。 ◦ N・NとN・Hは自分のした活動をほめられうれしそうにする。 ◦ N・Hはまだ食べ物の絵を持っている。 ◦ T・Mは教師の話を聞いており、「だんど、だんど」と言う。

- 今までの店作りの経験を生かし、しんどだんど屋の店を作ることができたか。

9. 考 察

小学部では、子供たちの欲求を満たし、情緒を安定させて満足感を十分に与え、行動への意欲を育てていけば、子供たちは「生き生きとした活動」をするようになるだろうという考えのもとに、教材・教具の工夫、学習過程の定着化、役割分担という三つの研究視点から実践を重ねてきている。

本単元「まつりをしよう」は、今年度初めて取り入れた単元であり、子供たちの欲求、即ち興味・関心や発達段階に基づいた活動内容、教材・教具を与えることにより、子供たちは生き生きと活動するだろうという考えのもとに、授業を展開していった。

子供たちは、この単元の始めで、大学祭のみこしパレードや祭り会場の見学に行ったり、8ミリやVTRで地域の祭りの様子を見たりした。その中で、子供たちは、みこしを見ながら「あ、ドラエモンだ。」とか、模擬店を見て「わあ、だんご屋さんだ。」とか「食べたい。」といったことばを発し、祭りに対する興味・関心を大いに高めていった。また、この単元の最大の山場であり、まとめの場面でもある祭りの前日から当日にかけても、子供たちは、野菜や皿等の置いてある所に率先して行き、競い合って運んできて準備をしたり、みこしを元氣よくかつぎ「わっしょい、わっしょい。」という威勢のいいかけ声をかけながらパレードをしたりした。一方、子供たちが準備した模擬店においても、招待した母親や中・高等部の生徒たちに楽しそうにみかんや野菜を売ったり、教師と一緒に母親の作ったおこのみやきを買ったりして、子供たちはそれぞれの能力に応じて生き生きと活動することができた。

そこで、子供たちがこのように生き生きと活動するようになった過程を、小学部の三つの研究視点より述べていくことにする。

教材・教具の工夫

私たちは、教材・教具を、一人ひとりの子供の興味・関心をひき、活動を生き生きとさせるものとか、子供自身が全身を通して働きかけることによって技能や知識を高めるもの等、いろいろな角度から考えてきた。ここでは、その子の興味・関心をひき、生き生きと活動させることのできた例として、N・Hに対する教材・教具の工夫を述べていくことにする。

N・Hは、4年生の女子で、のりや粘土、セロファンテープ、水などを自分からは触りたがらない。そのため、身の回りの道具やいろいろな事物等に積極的にかかわっていくことはほとんどなく、衣服のボタンかけ等の身辺処理能力もまだ確立されていない。また、授業中は、いすに座ったままできているか立ってうろうろするだけで、自分から進んで活動したり、教師の指示に直ちに従ったりすることはほとんどなかった。ところが、彼女の休み時間の様子をよく観察してみると、人形や食べ物の載った絵本や雑誌にはたいへん興味を示すことが分った。そこで、授業においては、彼女にそれらの載った絵や写真の切り抜きを手がかりとして、店作りの活動に参加させることにした。

それまでの授業では、ぼんやりとして過ごすことの多かった彼女が、教師から人形や食べ物の載った切り抜きを示されると、急に目を輝かせて、「ドラエモン」とか「おだんご」と言

いながら教師の方へやってきて、その切り抜きを欲しがった。教師は彼女に切り抜きを与えながら、それを一つ一つセロファンテープで壁にはるように指示した。すると、「おだんご」とか「おいしいなあ。」と独り言を言いながら、一枚ずつ切り抜きをはっていった。一枚はるごとに教師に知らせにき、教師から承認や励ましのことをかけられると、また壁の所に行ってはるといった活動を続けた。あれだけセロファンテープ等を触ろうとしなかった彼女が、それを自分の手に持って切り抜きをはろうとしたことは、彼女にとって画期的な出来事であり、このことは、彼女の興味・関心のある人形や食べ物の切り抜きを、教材・教具として授業に導入したためであると考ええる。

このように、興味・関心のあるものを教材・教具として授業に導入することは、子供の心を外界に向けさせ、その外界をその子にとって意味ある環境へと変えていく。即ち、子供にとって外界とのかかわりのパイプができたとき、初めてその子供は生き生きと活動するようになる。この実践例では、N・Hの切り抜きに対する興味・関心の強さが、それまでは触ろうとしなかったセロファンテープを触らせる誘因となっている。このことは、子供の興味・関心のある教材・教具を導入すれば、それに対して子供が生き生きと働きかけるばかりでなく、付随して出てくる活動、例えば、テープを触るとか、テープをはるといった活動が、その子の活動の幅を広げ、外界とのかかわりを広げていくことを示している。

以上、子供の興味・関心をひき、生き生きと活動させるという面からの教材・教具の工夫を述べてきたが、昨年の3組の子供に比べると今年の子供は発達の遅れが大きいので、このような工夫をすることは有効な方法の一つであることが分かった。その際、子供たちの興味・関心や知識、技能、態度等の面からの細かな実態を把握し、子供の欲求をその子が発達していくための重要な手がかりとしてとらえることを、忘れてはならないと考える。

学習過程の定着化

子供の興味・関心のある活動、できる活動をつないで「流れ」を設定し、それを繰り返して何回も活動させることは、子供から「つないでできた新しい活動」への不安感を徐々に取り去り、情緒を安定させる。また、子供は活動や学習のしかたが分かり、見通しをもち、意欲をもって活動することができるようになると思う。ここでは、W・Yの例について考察してみる。

W・Yは、4年生の女子で、日直や係の仕事など与えられた仕事は確実にこなしていく。しかし、初めての活動に対しては、やってみようという気持ちよりもためらいの方が先にたち、なかなか体が動かず、もじもじしていることが多い。また、ある問題場面に出会ったとき、それまでの自分のできる活動をいくつか組み合わせれば問題を解決できるのに、組み合わせ方や手順が分からなかったりするために、見通しや意欲をもった活動ができにくい。そこで、本単元では、店作りや調理等の活動を繰り返させていくことにより、彼女のためらいを取り去り、見通しや意欲をもった活動ができるようにしていきたいと考えた。店作りの活動においては、「おこのみやきや」「みかん・やさいや」「いものてんぷらや」「だんごや」の四つの店を作った。

最近、自分の名前をどうにか書けるようになり、絵本の文字をわずかではあるが拾い読みできるようになったW・Yは、この店作りの活動において、看板書きの活動を希望した。第一回目の「おこのみやきや」の看板書きでは、当然のことながら、教師の方で道具の置き場所や看板の書き方、手順等を逐時説明しながら活動させていった。活動内容は、布の文字をぬる、その布を大型テープで竹にとめて看板にする、その看板を店の枠に取り付けるといったもので、彼女のできる活動をいくつかつないで活動の「流れ」を作った。

第一回めの「おこのみやきや」、第二回めの「みかん・やさいや」といった看板作りの活動では、彼女はまだ、書き方や手順が十分にみこめないのか、なかなか書こうとはしなかった。また、書き始めても「どうするの」とか「これでいいの」ということばが数多く口をついて出た。ところが、第三回めの「いものてんぷらや」、第四回めの「だんごや」の看板作りでは、書き方や手順が次第に分かってきたのか、活動にある程度の見通しをもてるようになり、自分から看板作りに必要な道具（クレヨン、大型テープ）を取りに行き、教師の指示や励ましがなくても、看板作りの活動をするようになった。そして、「どうするの」とか「これでいいの」ということばはなくなり、逆に、ゆったりとした表情が見られたり、看板の文字の周りに丸い水玉の模様をかいたりするようになった。さらに、実践授業において、彼女がT・Mとクレヨンの奪い合いをしたり、T・Mの分の看板まで色をぬったりしたこと、あるいは、看板を作り終えた後教師に、「終わりました。」と報告に来たりしたことなどは、同じ学習過程を何回か繰り返したことで、見通しをもって学習に取り組み、意欲をもって活動することができるようになったためだと考える。

このように、同じような学習過程の繰り返しによって、子供たちは一つ一つの活動の仕方を確実に身につけただけでなく、それらをつないでできた一連の流れのある活動の仕方まで身につけた。さらに、活動に見通しや意欲をもてるようになった子供は、繰り返しの学習の中で自分たちの意見や工夫を取り入れてもらうことにより、活動内容までも自分たちで広げていこうとする態度が見られるようになった。

役割分担

本単元では、店作りの活動の中でその子のできることを十分にさせるという考えのもとに、活動を分担していった。即ち、一人ひとりの子供の興味・関心や能力に応じて、くぎを打つ係、看板を書く係、壁の飾りを作る係等の役割を分担した。このように店作りの活動の中に役割を設け、それを分担していくことは、一人ひとりの子供の活動を明確にし、しかも、その活動は子供の興味・関心や能力に応じて分けられているために、子供を生き生きと活動させることができる。また、このような活動をさせる過程で、どうしても一人で運べないような大きな材料（店の外枠）や友達の手伝いを必要とするような活動等を取り入れていくことは、人とかかわり合いをもたせ、対人関係を育てていくうえでも大事なことである。ここでは、N・MとS・Jのかかわり合いについて述べていくことにする。

N・Mは6年生の男子で、本学級においては、知的な面においても運動的な面においても優れリーダー的存在であり、あらゆる活動に積極的に参加している。しかし、休み時間は、

ほとんど一人で自転車に乗って遊び、学級の女の子を殴って泣かせる等の行動が目につく。一方、S・Jは4年生の男子で、明るい性格ではあるけれども引込思案で、人前では一つ一つの行動に教師の指示が必要だったり、恥かしさのため活動を途中でやめてしまったりすることがある。このような二人に、彼らの興味・関心や能力に応じた役割を与え、お互いにかかわり合っていけるような場面を設定してやることは、彼らを生き生きと活動させるばかりでなく、相手を認めて一緒に活動する喜びや、対人関係を育てることになる。そして、それはN・MやS・Jの一人遊びや乱暴な行為、内気な行動を改善していくのではないかと考えた。

この店作りの活動で、N・MとS・Jはくぎ打ちの係となった。授業の前半の店作りの材料や道具を運ぶ際、二人とも自分の役割をしっかりと意識しているのか、「道具を運んでくれる人はいませんか。」という教師の発問に対し、二人とも威勢よく「はい、はい。」と挙手し、店の外枠やだんごをのせる机、金づち、くぎ箱等を元気よく運んでくれた。なかでも、机を運ぶときには、これまで三回の店作りで同じ仕事をやってきたせいも、教師がひと言も指示しないのに二人で協力して運んだ。また、金づちやくぎ箱を取りに行くときには、自分たちが使う道具という意識があったのか、互いに顔を見合わせて笑いながら、競争のようにして取りに行った。くぎ打ちのときには、最初、S・Jがどこにくぎを打つかわからず、「どこに打つの。」と人に尋ねる場面も見られたが、二人とも、うまくはないけれども一生懸命くぎ打ちを続けた。

このように、役割を分担して自分の仕事を明確にしたことは、彼らに、自分の仕事に対する責任感や誇り、集団の中における自己の存在観というものを無意識のうちに植え付け、彼らを生き生きと活動させたのではないかと考える。また、人と協力しなければ運べないような材料や道具を準備し、子供たちに協力して運ばせることは、人間関係の希薄なこの子供たちにとって、対人関係を育てていくための有効な方法の一つであると考えている。

Ⅳ ま と め

小学部では、子供が意欲的に活動できるための生活単元学習の計画や展開はどのようにすればよいかについて2年間、研究に取り組んできた。昨年度は、子供が「目的にそった行動や自発的な活動」ができるように、今年度は「より生き生きとした活動」ができるようになるには、学習過程の定着化等の視点からの研究が必要であると考え、実践・研究を行った。実践例として研究誌に昨年度は単元「かいものごっこ」を、今年度は「校内宿泊学習」、「まつりをしよう」を載せた。

二年間の研究、実践のまとめを子供の変容という面から見ると、発達の遅れの大きい子供でも、活動に喜びをもち、意欲的に取り組むようになり、生活態度が積極的になってきて、次の点を成果としてとらえている。

◎ 場の雰囲気や教師、友達とのかかわりなどで活動することの楽しさを知り、活動が活発にな

り、技能面の向上が見られた。

- 入浴の楽しさを知り、入浴を嫌がらなくなり、衣服の着脱もすすんでできるようになり、ボタンかけの技能も向上した。（校内宿泊学習）
- はっぴの着替え、始末を喜んでした。（まつりをしよう）
- 友達や上級生、母親に対して主役として活動する場をもて、生き生きと活動できた。かけ声、呼び込み、あいさつ、売る動作（まつりのパレードやお店やさん、かいものごっこ）

◎ 自分の生活そのものに関心をもって、生活面で積極さがみられるようになった。

- おやつをつくり、食べることによって、ままごと遊びが活発になった。（校内宿泊学習）
- ままごとをほとんどしなかった子供が、カレーづくりでにんじんやじゃがいもを洗ったり、切ったりすることで、それまで嫌いだったにんじんを食べられるようになったり、くだものにも関心を示して少しずつ食べるようになった。（校内宿泊学習）
- 教室での模擬店で値段札の見方、お金の出し方がわかるようになって、自分から購買部へ出かけ買うことができるようになった。（かいものごっこ）

問題点としては、生活面での向上はみられるが、できる活動の場面が限られており、とくに家庭では嫌がってできないことがあり、習慣化、態度化が十分にできていないことをあげたい。現在、私たちは、発達の遅れの大きい子供でも、彼等が意欲的に活動するための心の変化の過程を十分におさえて手だてを施していけば、彼等なりの生活の課題を生活単元学習によって解決して生活力を身につけ、高めることができるということがわかり、実践を始めた段階である。今後はこれまでの研究の成果をふまえて実践を続け、高まった生活力を習慣化し、態度化していくことに取り組みたい。そのなかで、子供一人ひとりの欲求、興味・関心、技能などはもちろん、その子の生活に携っている親や教師とのかかわり合いの程度、内容についても十分把握し、家庭との連携を深めるための研究と、子供がどのように変わっていくかを具体的に把握するための研究をする必要があろう。

